

菖蒲っ子魂を胸に

菖蒲川小学校（児童数 38 人）で 12 月 7 日（土）、閉校式典が行われました。

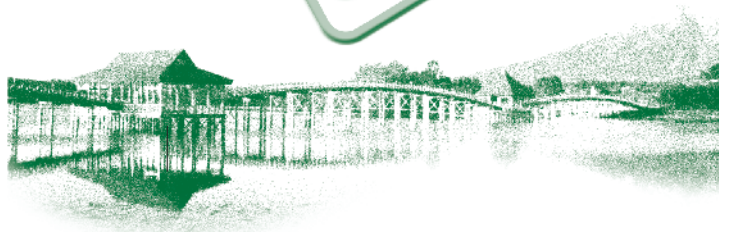
同校は 1877 年に創立。これまで 3700 人以上の児童が巣立ち、今年度の閉校をもって 142 年の歴史に幕を下ろします。

式では、福澤諭校長が「来年度以降は新しい環境で学校生活となります。これまで身に付けた力に自信を持ち、心豊かでたくましく生き、それぞれが持っている限りない能力と可能性を思う存分発揮してください」と呼び掛けました。

児童たちは「多くの方々が繋いできた伝統を大切にしながら、菖蒲っ子であることに誇りを持って、これからも頑張っていきます」と元気よく決意を述べていました。



△全校児童が壇上でこれからの決意を表明



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

伝統を新たな学校へ

12 月 21 日（土）、今年度で閉校する鶴田小学校（児童数 334 人）で閉校式典が行われました。

式では相川町長が式辞を述べ、歴代校長や PTA 会長らに感謝状が贈られました。中村隆人校長は「歴史と伝統ある鶴田小学校で学んだことを大きな自信として、新しいスタートラインに胸を張って立ってください」と児童たちに呼び掛けました。

児童たちは「たくさんの思い出があるこの校舎がなくなってしまうのは寂しいですが、数々の思い出はしっかりと胸に刻まれています」と感謝の言葉を述べた後、会場にいる出席者たちと校歌を斉唱しました。



△母校との別れを惜しみつつ校歌を斉唱

台湾の学生らが弥生画制作を体験

12月18日（水）、台湾・慈済大附属高級中学の生徒22人が、教育旅行の一環で山道文化センターを訪れ、山道町内会弥生画制作委員会の伝統である弥生画制作体験を行いました。

台湾の生徒は竹串に接着剤を付けて小さな種を一つ一つ拾い上げ、下絵に丁寧に貼り付けていました。

生徒のリーシェンフォンさんは「穀物を作品にする文化に衝撃を受けた。絵が神様に奉納されるので丁寧に貼り付けた」と満足げに話していました。

澁谷信一委員長は「『鶴と国際交流の里』である鶴田町なので、弥生画で国際交流に貢献できたのうれしい」と話していました。



△一粒一粒丁寧に種子を貼り付ける学生たち



△寒さに負けず力強い行進を行った消防団員

新年の防火・防災を誓う出初め式

1月12日（日）、鶴田町消防団（下山正彦団長）が新年の出初め式を丹頂大通りで開催し、今年1年の無火災と無災害を願いました。

出初め式には消防団員や婦人防火クラブ員ら約300人が参加。各分団は、観閲者の相川町長から服装や姿勢の点検を受けた後、纏振りや分列行進を行い、消防人として地域住民の生命と財産を守る決意を新たにしました。

町国際交流会館で執り行われた式典では、大性分団ら3分団へ鶴田町長表彰が、野木分団の田澤淳志副部長ら8人に町消防団長表彰が贈られ、相川町長は「本年は災害がない穏やかな年になることを願います」と式辞を述べました。

笑顔溢れる芸能発表会

1月16日（木）、町健康福祉センター「鶴遊館」において、新春高齢者芸能発表会が町と鶴田きらめきクラブ（乗田勝雄会長）の共催で開催され、出演者が踊りやカラオケ、楽器の演奏などを披露しました。

相川町長は、「町の看板政策のひとつに長生きがあります。長生きの秘訣は趣味を持つことだそうです。本日の発表を見て、何か新しい趣味を始めてみてほしいと思います。今日は最後まで楽しい時間を過ごしてください」とあいさつしました。

23組の出演者が練習してきた成果を披露し、約300人の観客が訪れた会場は、たくさんの笑顔と大きな拍手に包まれました。



△新たな年を祝う謙良節を披露